

Nara National Museum

奈良国立博物館

だより

第89号

平成26年 4・5・6月



神奈川県指定文化財 十二神将立像のうち戌神 部分（鎌倉国宝館）

特別展

武家のみやこ

鎌倉の仏像

— 追真とエキゾチシズム —

4月5日(土)～6月1日(日)
東・西新館

特別展

醍醐寺文書聖教7万点 国宝指定記念

国宝 醍醐寺のすべて

— 密教のほとけと聖教 —

7月19日(土)～9月15日(月・祝)
東・西新館

名品展

珠玉の仏たち

通期開催
なら仏像館

中国古代青銅器

通期開催
青銅器館

※なら仏像館は、9月8日より休館します。
(詳細は中面「出陳一覧」をご確認ください)

「醍醐寺と南都の密教」

奈良国立博物館では、この夏に特別展「国宝 醍醐寺のすべて 一密教のほとけと聖教一」が開催されます。これに関連して今回の夏季講座では、醍醐寺の歴史と美術、またあまり知られていない南都との深い結びつきをとりあげ、日本史、美術史など様々な研究分野の第一線で活躍の先生方をお招きし、ご講演をいただきます。

特別展の観覧も含めて3日間の充実した連続講座です。どうぞ奮ってご参加下さい。

開催日：平成26年8月19日(火)～21日(木)

主催：奈良国立博物館

会場：奈良県文化会館 国際ホール

(近鉄奈良駅から徒歩約5分)

受講料：3,500円

*会場費、テキスト代などを含みます。受付決定後に振り込んでいただけます。

定員：600名

*先着順。ただし定員数の8割を超えてから到着した分は、奈良国立博物館パスポートメンバーを優先とし、その他は抽選で決定いたします。

応募方法：往復はがきによる郵送に限ります。

*往復はがきに「夏季講座参加希望」と書き、[氏名・住所・郵便番号・電話番号・性別・年齢]を明記してください。

*奈良国立博物館パスポートメンバーの方は、カード番号もお書きください。

*返信用はがきには宛名を記入してください。

*はがき1枚につき申込者1名としてください。

受付開始：5月19日(月)

*受付開始日以前にご応募いただいた場合は無効とさせていただきます。

*先着順で受付け、受講番号と受講料振り込み先を記した返信用はがきをお送りします。

応募締め切り：7月11日(金) 必着

*定員の8割を超えてから到着した分は、受入の可否を7月18日(金)までにご連絡いたします。

申込・問合せ先：〒630-8213 奈良市登大路町50

奈良国立博物館 学芸部教育室

TEL 0742-22-4464 FAX 0742-22-7221

*ホームページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.narahaku.go.jp/>

文化財修理保存のためにご寄附を！

貴重な文化財を次世代に伝えるため、皆さまのご支援とご協力を仰いでおります。文化財の修理保存のための募金箱をなら仏像館に設置いたしました。500円以上のご寄附をいただいた方には、当館オリジナルの仏像ガイドブック『仏像を観る』(B5版31頁、カラー印刷)を進呈いたします。



もっと知りたい!奈良博の魅力
春の庭園散策しませんか?

3月29日(土)・30日(日)、4月26日(土)・27日(日)
雨天時は中止

当館の隠れた名所、茶室・八窓庵^{ほっそうあん}をとりまく庭園をご案内いたします。桜の開花にあわせ、当館ボランティアが見どころを解説いたします。今回は仏教美術資料研究センター(重要文化財・旧奈良県物産陳列所)の外観も同時にご覧いただけます。

庭園散策

◆時 間：午前10時～、午後1時～
※所用時間約60分

◆集合場所：なら仏像館入口付近

◆料 金：無 料
(ただし、当日観覧券もしくはその半券、国立博物館パスポート等をご提示いただけます)

◆定 員：各回とも先着20名 ※事前申込み不要



仏教美術資料研究センターの外観見学

◆時 間：午前10時～12時、
午後1時～3時
※随時受付

◆受 付：仏教美術資料研究センター
(春日大社参道沿い)

◆料 金：無 料
(観覧券等の提示は不要です)

◆内 容：当館ボランティアが建物を解説します。建物内部には入れません。



【表紙写真解説】
じゅうにしんしょうりゅうぞう
十二神将立像のうち戌神

神奈川県指定文化財
木造 古色塗り 玉眼
像高一二九・八cm
鎌倉時代(十三世紀)
鎌倉国宝館

建保六年(一一二八)、鎌倉幕府二代執権の北条義時(一一六三～一二二四)は、戌神の夢告を受けて、現在の鎌倉市二階堂の地に大倉薬師堂を建立、仏師運慶作の薬師如来像を安置した。すると、鶴岡八幡宮での源実朝暗殺に際し、義時はこの戌神の守護により難を逃れたという。以降、巻髪まきかみの戌神をふくむ十二神将像は、霊像として鎌倉人の厚い信仰を集め、鎌倉周辺で広まりをみせた。

いまはなき大倉薬師堂像の現存最古の模刻とみられる本像の表情は、類品中きわだって個性的だ。重たげな臉まがたと下がり目、そして団子鼻がつくり出す独特の顔立ちには、義時の夢に現れた「白犬」の霊験れいげんを付与すべく、狎な犬いぬのような大種の容貌上の特徴を大胆に投影させたのだろう。神将像にはめずらしい奔放に渦巻く巻髪が、異国的風貌をますます生彩あるものにして

いる。ところでは本像に對峙すると、京都・浄瑠璃寺旧蔵の十二神将像中の申神(東京国立博物館蔵)を思い起こす。つぶらな瞳がじつに愛らしい申神は、どこまでも純真な子どもそのもの。本像と申神は、容貌も作風も異なるが、忿怒相こんごそうで統一された一具中でひとり異色の表情をみせる点では相通じる感覚が底流している。旧浄瑠璃寺像は近年、建暦二年(一一二二)ころの運慶工房作として再評価する見解が出されたばかりだ。本像の深遠なまなざしもまた、北条得宗家繁栄の願いを込めて運慶が手がけただろう大倉薬師堂像の面影を濃厚にとどめていと解したい。

山口隆介(当館学芸部研究員)